

平成29年度6月 定例市長・市政記者懇談会の結果について

日時 平成29年6月13日（火）午前11時00分～11時20分

場所 市役所2階 第1委員会室

出席 市政記者クラブ10社

会見内容

1. はじめに（2項目）

1. 阿寒国立公園の名称変更について

- 阿寒国立公園の名称変更について、本日環境省の「中央環境審議会」が開催されており、この中で「阿寒摩周国立公園」と変更することについて、答申が出される予定となっております。
- 審議会での答申を受け、環境省が官報での告示で正式に名称変更が決定されます。なお官報告示までには1カ月程度時間を要するとのことであり、8月上旬には告示されるとお聞きしております。
- 名称変更に伴っては、記念式典なども実施したいと考えており、詳細は今後詰めていくこととなります。
- 7月31日には釧路湿原も指定30周年ということで、様々な場面でPRしていきたいと思っております。

2. 全国市長会副会長就任について

- 6月7日（水）に行われた全国市長会総会におきまして、副会長にご選任いただきました。
- 釧路市長が副会長の職に就いたのは、平成元年、当時の鰯淵市長に次いでということになります。
- 全国814の市区長としっかりと連携しながら進めてまいりたいと思います。
- また5月17日に行われた北海道市長会におきまして、副会長に再任されたことも併せてご報告いたします。

2. 話題提供（2項目）

1. 釧路空港への季節運航便の就航について

- 釧路と大阪を結ぶ国内路線として、全日空の伊丹線が、本年も7月14日（金）から8月31日（木）までの夏季限定で運航されることになりました。
- また、釧路と名古屋を結ぶ、日本航空の中部線につきましては、8月1日（火）から31日（木）までの期間で運航されることとなりました。
- 運航ダイヤにつきましては、お手元の配布資料に記載されております。
- この季節便の運航に先立ちまして、5月13日（土）から14日（日）には名古屋地域、6月3日（土）から4日（日）には、大阪地域において、観光プロモーションを実施し、釧路の「夏の涼しさ」や、涼しい釧路で楽しむ「観光」・「自然体験」・「食の魅力」など、利用促進に向けたPRをしてまいりました。
- 特に中部線の観光プロモーションでは、帯広市と連携し、釧路と十勝の魅力を組み合わせた、ひがし北海道エリアの魅力を発信してまいりました。
- なお季節便の初便の釧路空港到着に合わせて、歓迎行事の実施を予定しており、乗客の皆様には、観光パンフレットと記念品をお配りすることとしております。
- こうした取り組みを通じ、より一層の利用促進を図るとともに、関西・東海方面の観光客やビジネス客をはじめとする、多くの皆様に釧路へお越しいただき、地域経済の活性化に繋がるよう努めてまいりたいと考えております。

2. 長期滞在の平成28年度実績について

- 平成28年度における釧路市の長期滞在の受入実績は、863組、1,311人、延べ滞在日数22,105日で、平成27年度と比べ、583組、856人、12,234日の増加となりました。
- 滞在実績が大幅に増加した要因としては、大型団体ツアーのうち、くしろ長期滞在ビジネス研究会会員のホテルが受入した、460組、687人、6,330日を新たに実績にカウントできるようになったこと、夏の滞在がホテル・マンションとも好調であったこと、また、冬の「花粉ゼロツアー」の販売が増加したことが挙げられます。
- 夏の滞在につきましては、7月から9月までの延べ滞在日数では17,511日を数え、平成27年度同時期の8,198日に比べ大幅に増加、「涼しい釧路」の人气が一層高まっている状況となっております。

- また、冬の「花粉ゼロツアー」については、新規参入4社を加えた5社の旅行代理店で販売され、このうち、団体ツアーを実施した旅行代理店では、夏のツアー参加者に対しご案内したところ、大変好評で、108名もの申込みがあったと聞いております。
- これらのツアーの効果で、平成28年2月から3月の延べ滞在日数は658日となり、平成27年度同時期の245日から大幅に増加しました。
- これら実績の大幅な増加は、けん引役である「くしろ長期滞在ビジネス研究会」の不動産関係・ホテル関係をはじめとする会員の皆様の取り組みが結実したものであり、会員各位の熱意とご尽力、また市民の方々のご対応などに対し、改めて感謝申し上げます。
- なお、平成27年度まで釧路市が5年連続第1位となっている、北海道体験移住「ちょっと暮らし」事業実績につきましては、現段階では発表されていませんが、6年連続第1位を達成できるものと見込んでいるところであります。
- 平成28年度におこなった主な取り組みとして、くしろ長期滞在ビジネス研究会では、ホームページをリニューアルしたほか、フェイスブック、メールマガジンを開始し、情報発信の強化に努めたところであります。
- また、市では、長期滞在の方が、市内の社会教育施設の一部を市民と同様の条件で利用でき、和商市場や阿寒マルシェでの買い物が5%割引となる特典がついた「くしろステイメンバーズカード」事業を開始し、423名の方にご利用いただきました。
- 長期滞在につきましては、涼しい夏や豊かな大自然を高く評価いただいているほか、「もっと長く滞在したい」「もっと地域の方々と交流したい」「もっと釧路のことを知りたい」との声を多くいただいております。
- 今後とも、くしろ長期滞在ビジネス研究会と緊密に連携を図り、滞在施設の供給拡大等の受入環境の整備に努めるとともに、滞在される方々に「くしろファン」になっていただけるよう、釧路の文化や歴史等を学ぶ地域学習講座や市民との交流の場の提供など、きめ細かなサポートを行ってまいりたいと考えております。

3. その他（2項目）

1. 住民等主体の通所サービス（おたっしゅサービス）の実施について

- 6月から始まったこの事業は、家に閉じこもりがちな高齢者などが、この「おたっしゅサービス」に通うことで、生きがいつくりや健康保持を図ることを目的としており、また社会的孤立を防止する効果も期待できます。
- サービスの内容につきましては、運動・認知症予防・参加者同士の交流を組み合わせた、1時間以上のプログラムとなっており、週に1回程度の実施となっております。
- サービスの利用対象者は、要支援認定を受けている方と、生活機能が低下していると認められる高齢者となっており、サービスの実施団体は、町内会、老人クラブ、NPO法人、介護サービス事業所、民間企業など、サービスの提供が可能と認められる団体となっております。
- 実施個所につきましては、6月時点で12団体により18カ所で活動が順次始まることとなっております。
- 団体は今後さらに拡大する予定であり、今回、応募のなかった15の小学校区を対象とした、実施団体の再公募を8月に予定しております。また、広報くしろ8月号に、現在実施している団体の活動状況を掲載する予定です。
- この「おたっしゅサービス」の利用を希望される方は、お近くの地域包括支援センター、または市役所介護高齢課にご相談をいただければと思います。

2. 市政懇談会の実施について

- 今年度の市政懇談会を、6月27日（火）のまなぼつと幣舞をスタートに市内8カ所（釧路地域5カ所、阿寒地域2カ所、音別地域1カ所）で実施いたします。
- 今年度も、それぞれの地域の課題や取り組み等について、地域の皆様と情報共有、そして、課題解決に向けた話し合いをしたいと考えておりまして、釧路市連合町内会様のご協力をいただきながら、事前に調査を実施しております。

- また、「将来を見通したまちづくり」と題しまして、市の財政状況や、これからの人口減少社会に立ち向かうべく、釧路市まち・ひと・しごと創生総合戦略や観光立国ショーケースなど、今後のまちづくりを進めていくための事業などについて私からお話をさせていただき、市民の皆さんとまちづくりについての情報を共有したうえで、地域の皆様からも、いろいろなご意見をいただきたいと考えております。

4. 質問要旨

(質問)

- ・ 伊丹線と中部線で運航する機種と定員数は、それぞれどのようになっているのでしょうか。

(観光開発主幹)

- ・ 両方ともメインの機種はB-737で、定員数は166人です。

(質問)

- ・ 季節便運航はそれぞれ何年間継続していますか。

(観光開発主幹)

- ・ 伊丹線につきましては14年目で、中部線につきましては4年目です。

(質問)

- ・ 平成28年度の季節便の搭乗率はどのくらいでしょうか。

(観光開発主幹)

- ・ 伊丹線は68.4%、中部線は73.1%です。

(質問)

- ・ 市としては通年化を望んでいると思うが、航空会社等とは何か話をしていきますか。

(市長)

- ・ 今後、伊丹空港・関西国際空港・神戸空港の統一運営の話もあるようですが、現段階では話をしていません。航空機の発着枠の関係もありますが、釧路市としては通年化や季節運航期間の拡大を要望し続けています。長期滞在でも関西方面からたくさんの方々が釧路を訪れており、現在の伊丹線の運航期間がもっと拡大するといいいとの声が多く上がっています。

(質問)

- ・ 平成28年度の長期滞在の数字が大幅に増えているようですが、前年度までの数字の内容が違うので、比較ができないと思うのですが。

(交流推進主幹)

- ・ 団体ツアーを加算したことで、昨年度のデータとは内容が変わってきてい

る状況です。のちほど平成27年度以前の、団体ツアーの客数を整理して報告します。

(質問)

- ・ 「おたっしゅサービス」のような事業は、民間で行われているが、行政で行う意味はどのようなことでしょうか。

(介護高齢課長)

- ・ 民間で行うサービスの対象者は、一般の高齢者を含んだ地域の高齢者全体となっているが、おたっしゅサービスの対象者は、要支援認定者と、25項目によるチェックリストで判別した生活機能が低下していると認められる方に対する介護サービスとして行われるもので、回数も週1回程度となっており、一般的に行われているものよりも回数も多く、介護予防を目的としたサービスとなっています。

(質問)

- ・ サービス内容は、各実施団体が決めるのですか。

(介護高齢課長)

- ・ 基本となるサービス内容は、「運動」「認知症予防」「参加者同士の交流」を組み合わせることで行っておりますが、具体的な内容は、各実施団体が特色ある事業を実施していただくこととなっております。

(質問)

- ・ 行政としてはどのような関わり方をしているのですか。

(介護高齢課長)

- ・ 実施団体には参加者数に応じた、運営費や会場費の補助を行います。
また、参加者につきましては、市が委託している地域包括支援センターで対象者の把握をして、事業者とのマッチングを行っています。

(質問)

- ・ 平成29年度の予算額はどのくらいですか。また現在の利用者数は何名ですか。

(介護高齢課長)

- ・ 事業費が14,031千円で、うち13,677千円は補助金分となっております。

利用者につきましては、このサービスが始まったばかりですので、6団体の実施で23名が利用されています。

(質問)

- ・ このような事業を行っている自治体はありますか。

(介護高齢課長)

- ・ あります。平成27年度の介護保険制度改正により、新しく介護予防日常生活支援総合事業が組み入れられ、自治体が取り組みを行うかどうかを選択

できるようになりました。釧路市では平成29年度から行っていくということになりました。

(質問)

- ・ 冒頭にありました、阿寒摩周国立公園の名称変更につきまして、具体的に観光客や国内外の方々に、どのようにアピールしていくのでしょうか。

(市長)

- ・ 「阿寒」に知名度のある摩周湖の「摩周」が加わったということが大変大きなことであると思っています。パンフレットなどの表示を変えるのはもちろんですが、さまざまな機会を通じて発信していくことが大切であると思います。

(質問)

- ・ いつ頃から表示等を変えていく予定ですか。

(観光振興監)

- ・ 正式には8月の官報告示をもって決定ということになりますので、それに向けて今からしっかり準備をしていきます。

(質問)

- ・ 長期滞在についての数値目標はありますか。また年々増加している要因はどのようなことだと思いますか。

(交流推進主幹)

- ・ 目標数値につきましては、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」の中で、1,200人と設定しています。

(市長)

- ・ 要因ですが、やはり「涼しさ」「食」とお聞きしていますが、他に多くの方々が「風土」や「人」がいいとおっしゃられています。釧路は港町なので、昔からいろいろな地域の人が行き交ってきたことから、人々を受け入れるということが根付いているということかもしれません。今後の「観光立国ショーケース」「国立公園満喫プロジェクト」「水のカムイ観光圏」などでも、いらっしゃる方々の受入れやコミュニケーションを取ることでできる環境を整えていくことで、他の地域より優位性が増すのではないかと考えています。

(質問)

- ・ 7月31日に、釧路湿原国立公園指定30周年記念事業が予定しているようですが、その中で今回の名称変更のセレモニーを行われますか。

(観光振興監)

- ・ 名称変更の告示が8月過ぎに予定されていますので、30周年記念事業では行うことができません。

名称変更の記念式典は、11の市町村で構成される協議会の主催で行うことで検討しています。

(質問)

- ・ ちょっと暮らしからの移住・定住についてはどのようになっていますか。

(交流推進主幹)

- ・ 移住・定住された方々の人数というのは、実際にされた方々からの報告等の手段がありませんので、あくまでも事務局で確認できている人数として、移住が累計で5件、2地域居住を含めると46件と把握しています。

また、今年の9月から、住民票を異動されてきた転入者の方々にアンケートを取っております。その中では、2割程度の方々が、今後釧路市から出る予定がないと回答しておりますので、移住された方は実際にはもっといるものと思っております。

(質問)

- ・ 家屋などの物件の需要はあるのでしょうか。

(市長)

- ・ 中古マンションなどの物件は、価格も安価に購入できることもあり需要があるようです。他にも一軒家を購入された方もいらっしゃいます。

(質問)

- ・ 季節運航便についてですが、過去には福岡とか仙台とか複数路線があったかと思います。近年は2便となっていますが、ここに絞り込んだなどの経緯はあるのですか。

(市長)

- ・ おそらく航空自由化から大きく流れが変わって、より効率の良いところに路線を集約したことによるものだと思います。

(質問)

- ・ 東北の方は、函館までは来るけれども釧路は遠いと感じているようです。仙台便があってもよいのではないのでしょうか。

(市長)

- ・ 需要の問題もあるのかもしれませんが、現在は仙台からの直行便がありませんので、乗継で来ていただくしかありません。

近年は一定の需要のある伊丹線と中部線に力を入れてきました。

さらなる需要発掘のために、広島や九州方面などで涼しい釧路などのPRを行っており、これを路線確保に結び付けていきたいと思っております。

(観光開発主幹)

- ・ 航空会社には要請を行っていますが、機材繰りや需要の関係がありますので、需要の底上げを図っていききたいと思っております。

(質問)

- ・ LCCの就航についてはどうですか。

(市長)

- ・ 仙台空港はLCCの拠点となっており、釧路空港への乗り入れなどについて相談は行っていますが、今のところそのような話は出てはいません。
その他に、新幹線で函館まで来て、そこからどのように北海道の各地域に行くかということについて相談しています。

(質問)

- ・ 釧網線の関係で、先日、合同の意見交換会を行っておりますが、オホーツクの方は協議が進んでいる印象と受け取れました。今後、市長として釧網線の議論について、懸念材料や課題というものは何かないでしょうか。かなり。

(市長)

- ・ オホーツクの方では、さまざまな勉強会等を行い、大変進んでいる形だと思っております。その中で、色々な状況等に対応していかなければいけないものということで、しっかりと進めていこうというところが、水谷市長をはじめ、他の方と共通の認識です。色々なことがどのような形で出てくるかということを考えていこうということです。

ただ、鉄道については、地域公共交通として位置付けしている部分に対しての違和感というものがああります。もちろん、釧網線は地域です。しかし、鉄道というものを地域公共交通と認識し、その上で地域の中で、そこについて協議していきましようという位置付けです。鉄道というものは、そういうものなのだろうかと思えます。

国土形成計画の公共インフラに位置付けられるものが鉄道ではないかと思っております。例えば、その中で、鉄道全てではなく新幹線だけが国土形成計画に位置付けられるとした場合、鹿児島から札幌までという形で、北海道は本当にそれでいいのかということです。

札幌まででいいのだろうか。効率のこともあって札幌から根室や稚内など、国土利用という意味合いの中での鉄道の位置付けがあるのではないかということです。私は審議会の中でも、そのようなお話をさせていただいております。

地域公共交通、つまりバスや鉄道は一緒であると位置付けているところが、私は本当にそうなのだろうかというところから考えています。

幹線としてなのか、あくまでも地域の公共交通というものはどのようなものが必要なのだろうかという話をさせていただいて、しっかりとした整理が必要であると言っているのですが、まだ、その整理がなされていないという状況であります。

ただ、現実にある釧網線、花咲線をしっかり残していくということが必

要だということを書いていながら、また利活用を含めて考えていかなければいけないという話と、もちろん、オホーツク側といろいろと連携を取っていながら、協議を行っているという状況です。

(質問)

- ・ オホーツクは、かなり先行しているイメージがあります。釧路の方は会議の回数が少なく会議が開かれていないので、意識は一致しているにしても、議論が深まっているか深まっていないかの差があるのではないかと考えています。

(市長)

- ・ 基本的には、勉強会等の形は進めています。先程の鉄路というものは何かという整理とについて、お互いが共通認識で持っております。

これから北海道は何を活用していくのか、食と観光であるとなったときに、オホーツク地域や釧路、根室、十勝の地域をどのように活用していくのかを考えると、交通インフラが必要であると思っています。しかしながら現状、観光というものの基軸の中でどのように進め、共にお互いが鉄路を残していくという観点で、今後どのような動きが出てくるかを見ながら対応していくという形になると思います。そこが遅れているとか進んでいるとか、お互いが共通の認識の中で、真剣に考えているという意味では、あまり差はないのではないかと考えております。作業が進んでいるのは間違いないです。

(質問)

- ・ 温度差はないということですか。

(市長)

- ・ 私はそのように思っております。路線を残すというところから始まっていますので。

(質問)

- ・ 陸上自衛隊第7師団が訓練の一環で今月下旬に、釧路港から矢臼別まで、戦車の輸送訓練を行い、その中で、戦車の公道走行が計画されていますが、市内を走るということに関しては、市長はどのようにお考えでしょうか。

(市長)

- ・ 基本的に、日本の平和や、地域の住民の安全をしっかりと守っていく中で、当然、自衛隊のさまざまな訓練があって実現できるものだと思っていますので、訓練は基本的に必要なものだと考えています。

(質問)

- ・ 時間帯に限らないですが、騒音の懸念とかはあるとは思いますが。

(市長)

- ・ 訓練を行うにあたりまして、当然、国がしっかりと、安全に事故のないように行っていくということが、大前提になります。

併せまして、私どもも安全に行っていただきたいですし、騒音等のトラブルがないようにということはお話をさせていただいております。今までもしっかりとした基準を守りながら行っておりますし、戦車の場合は、ゴムをまくなど、事故のない安全な騒音対策をしながら、行われていくものと考えております。